

3. 研修事業

- ・若手日系農業者等及び日系農業者団体女性部員を対象に研修を実施する。
- ・研修を補完する上で必要がある場合、事業対象国を対象に専門家による研修等を実施する。
- ・過年度事業の成果等の評価・分析等に資するため、過年度事業の研修修了生の動向調査を行う。

若手日系農業者等の育成研修、日系農業者団体女性部の女性活躍推進研修、専門家の派遣等による事業対象国での補完研修を全体で 12 コース、オンライン方式により実施した。セミナー全体の実施方法を以下に示すと共に、各研修の実施結果についてはそれぞれ 3(1)、3(2)、3(3)に記載する。

1) 研修内容決定

- 世界各地での新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、国を越えた移動が困難となり、これまでのような中南米からの本邦研修、および日本人専門家派遣による研修が困難となったことから、オンラインで実施可能なセミナーを開催することとなった。
- 第 1 回日系農業者等連携強化会議（令和 2 年 9 月 11 日）に先立ち、事務局からセミナーテーマについて中南米の日系農業者に聞き取りを行い、上がってきた候補の中から 11 のコースを選定し、第 1 回日系農業者等連携強化会議で発表した（1.農産物の付加価値向上、2.土壌改良、3.農産物直売所の運営、4.観光農園の運営、5.規格外農産物による地域活性化、6.商品パッケージ改善、7.マテ茶害虫対策、8.農村観光、9.果樹栽培への移行、10.堆肥作り、11.農産物のオンライン販売）。さらに会議の中で意見を聞き、特に希望の多かった果樹栽培への灌水施肥というテーマを加え、12 コースが決定した。その後、土壌改良は予定していた講師が対応困難となり、会議前の聞き取りで希望の多かった果樹栽培技術を代替とした。
- セミナーは 9 月下旬から 1 月中旬までの期間に実施し、過密となった 12 月には週の 2 回実施となったこともあった。また農産物の付加価値向上については 1 セミナーで 3 回構成、商品パッケージ改善については 2 回構成とした。日程の詳細は 4) に示す。

2) 参加基準

- ・オンラインでのセミナー開催ということで参加資格は設定せず（選考はなく）、同じ人が何回でもどのセミナーにも参加できることとした。
- ・事業対象 5 か国だけではなく、他の中南米各国からの参加も可能とした。参加資格についても、オンラインでの実施を踏まえ、より多くの者に効果を波及させるという観点から、事業対象国、日系農業者等に限定することなく、幅広い参加を受け付けた。

3) 募集

セミナー参加者の募集は、セミナー実施日の 2 週間前を目途に事業ウェブサイト上に案内を掲載し、各日系農業者団体や過去の研修生にメールで案内をした。さらに、研修生 OB 会である J-AGRO の Facebook や WhatsApp グループでも参加を呼び掛けた。加えて、第 1 回日系農業者等連携強化会議に参加した在在外公館や JICA 各国事務所にも都度案内を行った。応募申込はウェブフォームから申込をする形式とし、携帯電話等からも申込が簡易に行えるようにした。



事業ウェブサイトでの案内（日本語・ポルトガル語・スペイン語）



セミナー案内（農産物直売所の運営）

4) 実施内容

セミナーは以下のコース・講師・日程で実施した。

No.	コース	講師	日程（日本時間）
1	農産物の付加価値向上	中村 健二（フードランド）	11 月 11 日（水）8:00-9:30 11 月 25 日（水）8:00-9:30 12 月 9 日（水）8:00-9:30
2	農産物直売所の運営	上原 亮（鎌ヶ谷房の駅）	12 月 1 日（火）8:30-10:00
3	果樹栽培技術	浦田 昌寛（元 JICA シニアボランティア）	12 月 17 日（木）8:00-10:00
4	観光農園の運営	平田 克明（平田観光農園）	1 月 6 日（水）8:00-9:30
5	商品パッケージ改善	江藤 梢（コトリコ）	12 月 11 日（金）8:00-9:30 12 月 22 日（火）8:00-9:30
6	規格外農産物による地域活性化	辻本 京子（遊子川ザ・リコピンズ）	1 月 8 日（金）8:00-9:30
7	マテ茶害虫対策	Susete Penteado （EMBRAPA ブラジル農牧研究公社）	9 月 24 日（木）4:00-6:00
8	農村観光（研修生活動事例）	Juliana Monteiro（モジダスクルーゼス農村組合） Akemi Hijioka（文協レジストロ）	10 月 8 日（木）7:00-9:00
9	果樹栽培への移行	Kunio Nagai（元コチア農協） Sergio Ituo Masunaga（APPC 農協）	10 月 28 日（水）8:00-10:00
10	堆肥作り（ぼかし）	Kunio Nagai（元コチア農協）	11 月 20 日（金）7:00-9:00
11	農産物のオンライン販売	Maria Flavia Tavares （FGV アグリビジネス講師）	12 月 4 日（金）7:00-9:00
12	灌水施肥	Wilson Goto（ヤライインターナショナル社）	1 月 13 日（水）8:00-10:00

若手日系農業者等の育成研修
 日系農業者団体女性部の女性活躍推進研修
 専門家の派遣等による事業対象国での補完研修

a. セミナーの基本設定

若手日系農業者等の育成研修（セミナー1～4）および日系農業者団体女性部の女性活躍推進研修（セミナー5～6）は日本側講師が行い、専門家の派遣等による事業対象国での補完研修（セミナー7～12）は中南米側講師（ブラジル）で行った。セミナーの時間帯は、日本との時差（12～14 時間）を踏まえ、中南米の研修生等が参加しやすくなるように、日本の朝、中南米の夜の時間帯とした。

研修時間は 90 分間の設定とし、スペイン語とポルトガル語の通訳（同時通訳）を付けて実施した。補完研修の時間は 120 分間とした。セミナー7, 8 については通訳を付けずに実施したが、セミナー9～12 では参加者がより理解しやすくなるように、スペイン語・ポルトガル語間の同時通訳を付けた。

セミナー参加者には、セミナー終了後にアンケートを依頼し、感想の聞き取りをした。アンケート結果は【3】(2)に示す。

b. 動画教材制作と事前質問受付

研修時間をより有効に活用できるよう、講演を事前に撮影・編集した動画教材を制作し、研修実施前にインターネット上で閲覧できるようにした。さらに動画教材にはスペイン語とポルトガル語の字幕を付けた。これにより、研修参加者は時間帯を選ばずに教材動画を視聴できるようになり、また複数回視聴して理解度を高めることも可能となった。また、視聴した動画教材に対する質問を研修前に受け付け、90 分間という限られた時間の中で効率的に質疑応答ができるようにした。

3(1) 若手日系農業者等の育成研修

農業・食産業の組織やビジネスを牽引する役割を担う次世代リーダーとして見込まれる者を対象に、農産物の高付加価値化、6次産業化、スマート農業等の最新技術、日本企業との連携等について学ぶ研修をオンライン方式で実施した。日程・コース・講師は以下の通り。

No.	日程	コース	講師
1	[1] 11 月 11 日 (水) 8:00-9:30 [2] 11 月 25 日 (水) 8:00-9:30 [3] 12 月 9 日 (水) 8:00-9:30	農産物の付加価値向上	中村 健二 (フードランド)
2	12 月 1 日 (火) 8:30-10:00	農産物直売所の運営	上原 亮 (鎌ヶ谷房の駅)
3	12 月 17 日 (木) 8:00-10:00	果樹栽培技術	浦田 昌寛 (元 JICA シニアボランティア)
4	1 月 6 日 (水) 8:00-9:30	観光農園の運営	平田 克明 (平田観光農園)

① 農産物の付加価値向上

1) 基本情報

講師	中村 健二 (株式会社フードランド社長、内閣府地域活性化伝道師)
期間	[1] 令和 2 年 11 月 11 日 (水) 8:00-9:30 [2] 令和 2 年 11 月 25 日 (水) 8:00-9:30 [3] 令和 2 年 12 月 9 日 (水) 8:00-9:30
場所	オンライン方式 (Zoom)
参加者	日系農業者：合計 81 名※ (ブラジル 55 名、アルゼンチン 1 名、パラグアイ 6 名、ボリビア 9 名、ペルー 6 名、メキシコ 3 名、不明 1 名) 関係機関：合計 9 名 (農林水産省、JICA、在外公館) ※参加者人数は重複除く 3 回の合計
内容	静岡県三ヶ日地域で取り組んでいる、廃棄されるみかんを活用してペーストに加工し、様々な製品を開発している事例から、地域にある農産物を活かして新たな価値を作り出す発想について学ぶ。

2) 参加者

[1] 11 月 11 日

ブラジル(41)	APPC 農協(4)、Berries Brasil(1)、Bom Sucesso de Itararé 市役所(1)、Capão Bonito 市役所(1)、Estação experimental Vila AnaMaria (1)、Filial スタジオ(1)、Horta グループ(1)、Horta Alimentos Eireli (1)、JATAK 農業技術普及交流センター(1)、Mangueiras 農場(1)、Nishijima 農場(1)、PRODUTOR BERRIES(1)、THREE LITTLE berries 農場(1)、Vitalis 食品販売(1)、アルトパラナイーバ農協(1)、イビウナ農協(4)、イビウナ農村組合(1)、ウニオンカストレンセ農協(1)、サンジョアキン農協(2)、サンフランシスコバレー文化スポーツ協会(1)、セラードブラジレイロ農協(1)、トメアス農業振興文化協会(1)、ノバリアンサ農協(1)、ピラールドスル(1)、ブラジル農協婦人部連合会(4)、プロミソン日伯協会(1)、モジダスクレーゼス農村組合(1)、レジストロ地域農業生産者協同組合(1)、農家(1)、公務員(1)、無所属(1)
アルゼンチン(1)	ハルディンアメリカ生産者組合(1)
パラグアイ(5)	イグアス日本人会婦人部(1)、国立アスンシオン大学(1)、全パラグアイ日系婦人団体連絡協議会(1)、パラグアイ日系農協中央会(1)、ピラゴ農協(1)
ボリビア(8)	サンフアン農協(7)、不明(1)
ペルー(6)	UPN(1)、エスキバル農畜産物生産者協会(3)、国立サンマルコス大学(1)、農家(1)
メキシコ(1)	iAgroS 社(1)
関係機関(6)	農林水産省(5)、JICA メキシコ(1)

[2] 11 月 25 日

ブラジル(31)	APPC 農協(3)、Bom Sucesso de Itararé 市役所(1)、Capão Bonito 市役所(1)、Filial スタジオ(1)、Horta Alimentos Eireli (1)、Horta グループ(1)、JATAK 農業技術普及交流センター(1)、Nishijima 農場(1)、SAA APTA UPD エコ農業(1)、Vitalis 食品販売(1)、アルトパラナイーバ農協(1)、ウニオンカストレンセ農協(1)、サンフランシスコバレー文化スポーツ協会(1)、スルマットグロセンセ農協(1)、セラードブラジレイロ農協(1)、トメアス農協(1)、ノバリアンサ農協(1)、ピラールドスル(1)、ブラジル農協婦人部連合会(4)、プロミソン日伯協会(1)、
----------	--

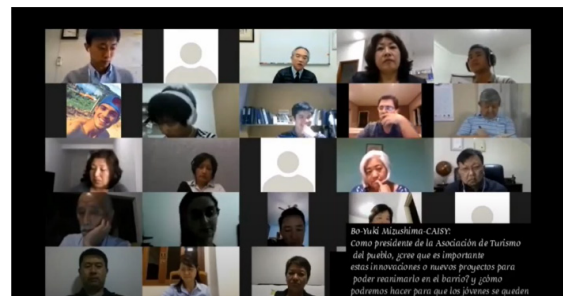
	モジダスクルーゼス農村組合(1)、ラーモス文化協会(3)、レジストロ地域農業生産者協同組合(1)、不明(1)
アルゼンチン(1)	ハルディンアメリカ生産者組合(1)
パラグアイ(5)	イグアス日本人会婦人部(1)、国立アスンシオン大学(1)、全パラグアイ日系婦人団体連絡協議会(1)、パラグアイ日系農協中央会(1)、ピラゴ農協(1)
ボリビア(4)	サンフアン農協(4)
ペルー(4)	Mayor de San Marcos 国立大学(1)、UPN(1)、エスキベル農畜産物生産者協会(2)
メキシコ(3)	iAgroS 社(1)、アカコヤグア生産者(1)、元 JICA 職員(1)
関係機関(2)	在サンパウロ日本国総領事館(1)、JICA メキシコ(1)

[3] 12月9日

ブラジル(31)	APPC 農協(1)、Bom Sucesso de Itararé 市役所(1)、Capão Bonito 市役所(1)、Filial スタジオ(1)、Horta Alimentos Eireli (1)、Horta グループ(1)、JATAK 農業技術普及交流センター(1)、Nishijima 農場(1)、SAA APTA UPD エコ農業(1)、アルトパラナイバ農協(1)、イビウナ農協(2)、イビウナ農村組合(1)、ウニオンカストレンセ農協(1)、サンジョアキン農協(1)、サンフランシスコバレー文化スポーツ協会(1)、セラードブラジレイロ農協(1)、トメアス農協(1)、兵庫県ブラジル事務所(1)、ピラールドスル(1)、ブラジル農協婦人部連合会(3)、プロミソン日伯協会(1)、モジダスクルーゼス農村組合(1)、レジストロ地域農業生産者協同組合(2)、Invest Paraná(1)、不明(3)
アルゼンチン(1)	ハルディンアメリカ生産者組合(1)
パラグアイ(5)	イグアス日本人会婦人部(1)、全パラグアイ日系婦人団体連絡協議会(1)、パラグアイ日系農協中央会(1)、ピラゴ農協(1)、不明(1)
ボリビア(6)	サンフアン農協(6)
ペルー(3)	Mayor de San Marcos 国立大学(1)、UPN(1)、エスキベル農畜産物生産者協会(1)
メキシコ(2)	iAgroS 社(1)、アカコヤグア生産者(1)
関係機関(2)	在サンパウロ日本国総領事館(1)、JICA(1)



教材動画



セミナーの様子

3) 実施概況

- 本セミナーは平成26年度事業でブラジル・ボリビアを訪問・指導していただいたフードランド社長の中村専門家に依頼をし、農産物の付加価値向上に関してセミナーをしてもらうこととなった。中村社長は平成26年以降も中南米日系農業者と個人的に連絡を取り、意見交換を継続しており、本人も積極的な姿勢であった。打ち合わせを通して、一度だけのセミナーではなく、日系農業者が実際に計画を立てるところまで後押しすることを狙い、3回構成のコースとすることとなった。
- 動画教材は完全液状化みかんを生み出した経緯など自身の経験を交えながら、既存のものから新しい発想・組合せによる新商品を作り出すことで、競争がなく自分が価格を設定できるというブルーオーシャンのビジネスについて解説し、90分を超える非常に熱の入った動画教材となった。
- もったいないビジネスという未利用資源の新しい活用法や、発想の転換による新たなビジネスの生み出し方について講義をしてもらい、コースは「啓発」「発掘」「計画」という3つのステップで、最終的に参加者自身が地域で実践する取組の計画を作成し発表してもらった。みかんを液状化する、みかんの花から香水を作る、みかんの花の酵母からパンを作る、誰も思いつかない前例のない取組に挑戦している中村社長の姿から学んだことは多かったと思われる。
- 毎回のセミナーに対して課題をやってもらうという、参加者にとって難しい内容ではあったが、13名が今後の活動計画を策定した。内容は主に、廃棄されている未利用農産物の活用など。活用

できていないもの、活用できていないと気が付いてすらいらないものに新たな視点で価値を見出し、何倍もの価値を生む商品を作り出すという発想に多くの参加者が感銘を受けた。

- 参加者が策定した活動計画は以下の通り。
 1. 葉や花を有効活用したボタニカルプリント（絹のストールなど）
 2. 地域の児童を対象とした農村ツーリズム活動（和食や生育サイクルの学習）
 3. さとうきび搾りかすの有効活用（合板加工）
 4. 廃棄する野菜の外葉を飼料として有効活用（地鶏・卵の販売）
 5. マテ茶やしょうがの有効活用
 6. ペルー産のイモ類を原料とした飲み物を販売
 7. 魚の飼育水や淡水魚残渣の有効活用（有機肥料）
 8. 加工によって青果物を栄養食品として有効活用
 9. ハチミツの加工による付加価値向上（蜂蜜キャラメルなどの菓子）
 10. 栗を加工（甘露煮・粉末・冷凍保存）によって製菓材料とする
 11. 廃棄される野菜の粉末化による有効活用
 12. 未利用農産物の有効活用（栄養素・薬効の分析、商品開発）
 13. 廃棄されるマンゴーの有効活用（パルプ、ジャム、アイス等）
- 3回のステップでセミナーを実施したことで、実際に考え出して計画を作るという段階までフォローでき、今後実践に移してくれることを期待できる。2月24日には、講師と10名程度の参加者に対してその後どうなっているか、フォローアップの聞き取りを行った。上記の計画を発表した人の参加は限定的であったが、ボタニカルプリントの計画を発表した参加者は、セミナーで聞いた発想の転換に大きな刺激を受けてボタニカルプリントという発想に至ることができ、さらに農協でも別の加工事業を進めることとなり、本セミナーが契機となったとの回答があり、セミナーのひとつの成果が垣間見えた。

4) 講師所感

- 過去の南米派遣において現地で反響の高かった「MOTTAINAI」を道標としたセミナーを組み立てた。セミナーの中では「強大なライバルがまだやっていないこと」や「まったくライバルの居ない無風状態」のマーケットに、誰よりも先んじて自らの魅力的な商品をマーケットに送り出す手法を取るべきだと伝えた。
- 多くの参加者が、非商品化未利用品＝農業産業廃棄物に気づいていたとセミナーを通じて感じた。「オリジナル」を考え、「地域性」に富んだ発言をしていたと思う。個々のコメントを見ていくと、身の回りにある、かなり日常的な「素材」を抽出して具体的に考え始めているのが読み取れた。つまり、私のMOTTAINAIというキーワードに触発されたのだろうが、実は農業に従事しながら彼ら自身も気づいていながら、口にすることがなく、改めて考え直してみたことがなかったことに気が付いたと思われる。
- ブラジル参加者が発表した、サトウキビの搾りかすを合板・集積板する事業や、同じくブラジル参加者の農村ツーリズムには、助言のできる専門家が伴奏すれば、そして投資をすることができれば、革新的なビジネスになると感じた。農業従事者本人が気づき、それが周囲と共に意識改革につながることを、今後の「強い農業」「儲かる農業」になると確信している。出来ることなら今後、このセミナーに参加した彼らを定点観測し、一方では時間が許せば彼らと付加価値化への行動を共にしたいと考える。

5) 研修生所感

- 商品に付加価値を与え、廃棄処分されるものを有効活用し新しいビジネスのチャンスが生まれる可能性を知ることができた。ペルーや世界の暮らしを変えるととても有益な研修だと感じた。
- 新しいことを始めるためには広い視野で物事を見る必要があると教わった。付加価値を与えることで、農業のみならずあらゆる分野にも変換可能であると学び、非常に有意義だった。
- 新しい商品が常に日常に潜んでいるという中村さんの言葉に感動した。大学や研究所などの共同

開発によって高品質の製品の開発かつコスト削減につながるのではと興味を持った。私たちの地域では小規模ながら餅米の有機栽培を行っており化粧品市場に供給するようにアミロペクチンに注目することを考えている。

- 我々の周りに眠っている宝物を掘り起こし、無駄な物を有効活用して誰もが考え付いていない新しい商品の開発し、そしてビジネス展開するというビジョンが面白い。研修で得たヒントを元に周囲に目を光らせ新しい商品の可能性を模索したいと考えている。
- 生産者から消費者までに商品が届くには計り知れない量の廃棄物が生じる。それらを減らし高品質の商品を届けることは生産者にとっては重要な試みである。柑橘の花摘み観光など誰もが考え付かない新しい商品・商売の発想は非常に興味深かった。
- 身近に誰もが考え付いていない宝物を発見すること、ブルーオーシャン戦略、小規模で始めて適切なパートナーを見つけ事業拡大、ブランド開発など面白い情報が満載だった。
- パラグアイの参加者が試みた乾燥野菜に興味を持った。私もデコポンの皮を乾燥させ粉にしようとしたが失敗した。香りは良いものの細かい皮のチップになり粉状までには至らなかった。しかし保存してある場所に蠅が寄り付かないのに気が付いた。柑橘の皮には虫よけ効果があると聞いているが、この研修コースをきっかけにこの皮のチップを紙にしても虫よけ効果が継続するのか検証したいと考えている。
- 自分たちの地域に隠されている宝物に目を向け、ビジネスアイデアを生み出す可能性について考えた。当たり前のものがじっくり観察することによって実は宝物だったというような、ゴミをダイヤモンドに変える発想に刺激を受けた。

② 農産物直売所の運営

1) 基本情報

講師	上原 亮（鎌ヶ谷房の駅 駅長）
期間	令和2年12月1日（火）8:30-10:00
場所	オンライン方式（Zoom）
参加者	日系農業者：合計30名（ブラジル21名、パラグアイ4名、ボリビア2名、ペルー2名、日本1名） 関係機関：合計2名（在外公館、JICA）
内容	房の駅は千葉県の特産品を中心に豊富な特産品を販売し、さらに生産者が農産物を持ち込む直売を運営している。生産者がどのように農産物を持ち込み、販売管理をしているか、その運営面について学ぶと共に、販促POPや陳列方法といった商品の販売における工夫について学ぶ。

2) 参加者

ブラジル(21)	APPC 農協(2)、Bom Sucesso de Itararé 市役所(1)、Capão Bonito 市役所(1)、Castanheiras 農場(1)、CEAGESP (1)、Horta Alimentos Eireli (1)、Horta グループ(1)、JATAK 農業技術普及交流センター(1)、イビウナ農協(2)、イビウナ農村組合(1)、サンフランシスコバレー文化スポーツ協会(1)、トメアス農協(1)、ノバリアンサ農協(1)、バストス地域鶏卵生産者協会(1)、兵庫県ブラジル事務所(1)、プロミソン日伯協会(1)、弓場農場(1)、自営業(1)、個人(1)
パラグアイ(4)	JOM S.A (1)、イグアス日本人会婦人部(1)、イグアス農協(1)、コルメナアスンセーナ農協(1)
ボリビア(2)	サンフアン農協(2)
ペルー(2)	エスキベル農畜産物生産者協会(2)
日本(1)	NRC(1)
関係機関(2)	在サンパウロ日本国総領事館(1)、JICA(1)